

毛呂氏館跡(入間郡毛呂山町)

築城年代:鎌倉時代、築城者:毛呂氏

前方の小山に毛呂氏館跡が所在する/左手に長栄寺の建物の屋根が見える

[\(クリックしてビデオを見る\)](#)



これは南側から見た長栄寺の境内/背後の小山に毛呂氏館跡の本郭が展開し、手前の一段下がった本堂があるエリアがこの郭で、本郭の右手(東側)へ回り込んでいる [\(クリックしてビデオを見る\)](#)



まず、この郭とされる境内に進もう/正面が長栄寺山門



「金嶋山」の山号扁額



「毛呂顯季館跡」の石碑



アップで見たところ



正面が長栄寺本堂



「埼玉県選定重要遺跡 毛呂氏館跡」の標柱



毛呂氏は藤原鎌足の後裔が毛呂郷に移住して毛呂氏を称したのが始まりとされ、毛呂季光を祖として15代が、この毛呂氏館に居住したと云われている



左手を見たところ



右手を見たところ/この二の郭は前方左手(東側)まで回り込んでいる



振り返って、山門を見たところ

[\(クリックしてビデオを見る\)](#)



本堂



鐘楼



さて、境内の左下に大きな池があった

[\(クリックしてビデオを見る\)](#)



館跡の他に墓もあるようだ



この池は城域を巡る水堀だったと云うが・・・



これは、そこから境内方向(北方向)を見上げたところ/前方の木々のエリアが本郭で、外秩父山地の先端を掘で区画し、コの字状に土塁で囲み、内部は平場となっている [\(クリックしてビデオを見る\)](#)



ここが本堂裏手の山林端にある毛呂氏墓

[\(クリックしてビデオを見る\)](#)





前方に「毛呂氏の供養塔」の説明板が立っている



毛呂氏の供養塔

毛呂氏の祖季光^{すえみつ}は、治承四年（一一八〇）源頼朝
挙兵以来その側近としてつかえ、毛呂郷地頭職^{じとうしやく}の
外、豊後の国守なども歴任している。頼朝の死後
起きた重臣間の争いを避け、職を辞して毛呂郷に
帰ったといわれている。

時代は、北條、足利と遷^{うつ}り変わる中にも、その
子孫は代々毛呂郷の地頭職として、時の流れに即
し領地も越生郷から比企郡の一部にまで拡大をみ、
居城毛呂城もしだいに整備されていった。

下って戦国末期の当主秋重は、小田原北條氏に
属し武蔵、相模各地で戦っている。一方豊臣秀吉
の全国制覇が着々と進められ、ついに天正一八年
（一五九〇）小田原攻めが決行された。秋重以下一
門は小田原の支城八王子城の守備に任じられた。
四月から攻防が始まり、六月には前田、上杉連合
軍の強襲をうけ、ついに落城、毛呂氏一門の多く
はこの時討死した。やがて小田原本城も開城とな
り、四百余年に亘^{わた}った毛呂氏は滅び、残された妻
子は他村に移るやむなきに至った。

この毛呂氏の墓所の一つがこの地である。なお
塔石の風化破損も進み、さらに不明となったもの
もあり、往時の名残を止どめるのみとなった。

平成元年四月

毛呂山町教育委員会

これがその供養塔



アップで見たところ



さて、ここを右手に進もう/前方に小さな行き先表示板が見える

[\(クリックしてビデオを見る\)](#)



「石尊山」と記されている



右手に進むとすぐに、行き先表示板が立っていた

[\(クリックしてビデオを見る\)](#)



毛呂氏館跡(本郭)は真っすぐのようだ





毛呂氏館跡

こちらは左手の石尊山方向/こちらへ進むと本郭の北側に出る



右下を見ると、長栄寺の南側の境内が見える



さて、真っすぐに本郭の南側へと進もう

[\(クリックしてビデオを見る\)](#)



途中、墓地があった



その先の北方向を見ると、行き先表示板が立っているのが見える



この前方が本郭





ここが本郭/南側から北方向を見たところ/左手(西側)が高くなっており、その上に土塁と堀が南北に沿っている/右手(東側)は一段下がっており、南側の二の郭(本堂のあったエリア)が回り込んだ部分



その更に前方を見ると、北側の虎口が見える

[\(クリックしてビデオを見る\)](#)



これは振り返って南方向を見たところ



ここが北側の虎口

[\(クリックしてビデオを見る\)](#)



これは虎口の外から振り返って見たところ/左右は土塁で、その手前は堀状の窪みが右手から左手に下っている



そこで左手を見たところ/東方向に下っている



ここで左手が更に一段下がっているが、そこが二の郭の東側のエリア/右上が本郭

[\(クリックしてビデオを見る\)](#)



虎口の右手を見たところ/低い土塁とその両サイドの堀状の窪みが見て取れる/左手が本郭の土塁

[\(クリックしてビデオを見る\)](#)



低い土塁と右手の堀状の窪みを見たところ



こちらは低い土塁と左手の堀状の窪みを見たところ/堀は前方に登っている/この窪みは縦堀のようだ/左手は本郭の土塁



その竖堀を少し登って、その先を見たところ

[\(クリックしてビデオを見る\)](#)



豎堀を登りきると、土塁と堀は左手に回り込んで南方向に続いている/正面に行き先表示板が立っている



最初の行き先表示板を石尊山方向へ登って来ると、この本郭北側に出ることが分かる



これは左手(南方向)に曲がって、東方向に土塁と堀を見たところ



土塁上に登って南方向を見たところ/左下が本郭の平場



右下の堀を見たところ

[\(クリックしてビデオを見る\)](#)



その堀を各所で見たところ



別の場所



こんな場所も・・・



参考ホームページ

<http://www.water.sannet.ne.jp/u-takuo/morosiyakata.htm>

<https://ckk12850.exblog.jp/4039726/>

<https://sites.google.com/a/onodenkan.net/lie-dao-cheng-zhi-ji-xing/qi-yu-xian/mao-lue-shi-guan>

<https://blog.goo.ne.jp/ihcirot/e/2dfbfe1fa2dfa7a937f4bbde107e2d93>

<http://tosyokan-bicycle.cocolog-nifty.com/blog/2018/08/post-4011.html>

<http://vogokun.my.coocan.jp/saitama/moroyamamati.htm>

https://natchdes3.blogspot.com/2015/02/blog-post_52.html

<http://s19741225.blog.fc2.com/blog-entry-240.html>

<https://lunaticrosier.blog.fc2.com/blog-entry-453.html>

<http://kogasira-kazuhei.sakura.ne.jp/subdir-siropage/morosiyakata-morojou.html>

<https://plaza.rakuten.co.jp/rekisiro/diary/201807140000/>

<http://iyokakuzukan.la.coocan.jp/011saitama/396moroyama/moroyama.html>

